

会 議 録

1 会議名

第1回上越市観光振興計画策定検討委員会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 上越市を取り巻く観光の現状（公開）
- (2) 今計画策定にあたっての基本的な考え方と今後の進め方（案）（公開）
- (3) 意見交換（公開）

3 開催日時

令和元年8月27日（火）午後2時から

4 開催場所

町家交流館高田小町 多目的ホール

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：丁野朗、平原匡、中牧俊明、齋藤光雄、板垣朗、南博幸、渡辺花、
岡田龍一、亦野潤一、今井圭介、上原みゆき、笹川枝里子、
山下智史、北嶋宏海（欠席1名）
- ・ 事務局：市川産業観光交流部長
観光交流推進課 吉田課長、小池副課長、岩野副課長、五十嵐係長、
見波主任、小林主事

8 発言の内容

- (1) 開会
- (2) 委嘱状交付

※委員を代表し丁野朗委員に委嘱状を交付

- (3) 挨拶

【市川産業観光交流部長】

ここ高田では、約5年前に開府400年を盛大に祝ったが、歴史のある城下町の

町並みや、雁木の町並みなどがあり、ここ高田小町においても、町家を利用した施設ということで、市民の皆様から広く利用いただいている。

今日の我が国の観光に目を向けると、従来、団体客が定番の観光地を回るという、旅行が標準になっていたが、近年は個人や少人数の旅が流行っており、それぞれの趣味や趣向に合わせた、「自分ならではの」旅を楽しまれる方が増えているという話を聞く。また最近では、インバウンド（訪日外国人旅行者）が国全体で増えてきており、外国人についても、旅慣れた方は、「こうした地域ならではのもの」が見たいというような傾向も見られる。

このことは、先ほど申し上げた、高田の歴史も含めて、それ以前からの、上越市の深い歴史、雪国の風土、その中で生まれた生活文化などの特徴をいかす好機でもあると考えている。

現在、市においては、第五次観光振興計画に基づき、「住んでよし、訪れてよしの選ばれる観光地域づくり」という一つのスローガンのもと取り組んでいるが、観光入込客数など、指標に掲げた数字は、目標を下回っているような状況もあり、また、市民アンケートを見ても、「もっと観光誘客を進めたほうがいい」などの意見が多数あるという状況である。

こうした現状から、見えてくる課題を踏まえて、来年度以降の上越市の観光振興の指針となる計画を策定して、上越市らしい取組を重ねて参りたいと考えているところである。

委員の皆様からは、忌憚のないご意見とお力添えをお願い申し上げ、あいさつとさせていただきます。

(4) 委員紹介

※上越市観光振興計画策定検討委員会委員名簿の順に紹介

(5) 正副委員長の互選

※会長に丁野委員、副会長に平原委員を選任

【小池副課長】

委員長、副委員長の就任に当たり、一言あいさつをお願いします。

【丁野委員長】

皆さんから助けをいただきながら、取りまとめていきたいと思っている。

今回は改めて観光ビジョンを策定するということであるが、特に私は、地域の未

来を見るときには、必ず過去の歴史から学ばなければならないと思っている。過去の歴史を忘れてしまうと、未来が見えなくなってしまうからである。

アーノルド・J・トインビーの言葉で、「歴史を失った民は滅びる」というものがあるが、それと同じことが実は地域でもおこっている。皆さんは違うと思うが、今、地域が自信を失っている最大の理由は、自分の町の歴史を見失っているというようなどころがあるからではないかと思っている。それは地域への愛着と誇りの喪失でもある。

今回のビジョンもそういう意味で言うと、これからのことを語る上で、地域のしっかりとした歴史的な流れ、特にこの上越市には非常に豊かな歴史があることから、そういうものをしっかりと見据えて、未来を見ていくようなビジョンができればと思っている。

【平原副委員長】

上越妙高駅西口前で、今「フルサット」という商業施設を運営しており、開業以来、3年経ち、4年目に入った。

来年が新幹線開業5周年ということで、北陸新幹線の開業は上越市にとってはここ、4～5年間で一番変化のあった出来事なのではないかと思っている。

私自身、上越市の生まれで、しばらく離れていたが、7～8年ぐらい前に戻ってきて、今の活動を始めた。やはり上越妙高駅前は、観光客と接点を持つには非常に良い場所で、上越市に色々なものを求めて来られる方が多く、日々、そういうものを学び、我々もそれに対応すべく動いているところである。

丁野委員長からビジョンという話あったが、それに向かって、皆さんとチームビルディングしていければと思っているので、よろしく願いしたい。

(6) 議事

【小池副課長】

それでは、議事に入りたいと思うので、丁野委員長、進行をよろしく願いしたい。

【丁野委員長】

それでは、次第に沿って議事を進めさせていただく。

まず事務局から (1) 上越市を取り巻く観光の現状について、及び (2) 今計画策定にあたっての基本的な考え方と今後の進め方についての資料の説明をいただき、

その後意見交換を行いたい。

では、まず事務局から資料の説明をお願いします。

— (1) 上越市を取り巻く観光の現状について—

【小林主事】

※「資料1 上越市を取り巻く観光の現状（各種データ）」に基づき説明

【五十嵐係長】

※「資料2 上越市第五次観光振興計画の振り返り」に基づき説明

— (2) 今計画策定にあたっての基本的な考え方と今後の進め方（案）について—

【見波主任】

※「資料3 論点メモ（本日もご意見いただいたこと）」、「資料4 今計画策定にあたっての基本的な考え方と今後の進め方（案）」に基づき説明

— (3) 意見交換 —

【丁野委員長】

資料3の論点メモに沿って、委員の皆さんの自己紹介とご自身の団体等における取組などを含めてご意見をお願いします。

また、資料4の基本的な考え方についても念頭におきながら、一人3分程度でお願いします。

【平原副委員長】

前回の観光振興計画検討委員として参加しており、今回もお声掛けいただいた。前回は、重点エリアという点で強調され、春日山などが観光地エリアとして重要視されていた。

今回の計画は、一から考え直そうということで非常に大変だと思う。若いメンバーの皆さんの力を借りて作るビジョンは非常に楽しみでもあり、ぜひ尽力させていただきたい。

【中牧委員】

国としては、平成15年から「ビジット・ジャパン事業」を開始し、インバウンドを推進してきた。

最近では「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定し、単年度ごとの行動計画を立て、今年の1月には、国際観光旅客税（出国税）の税収なども活用しながら、政府一丸となり観光振興に取り組んでいるところである。

広域連携では、DMOやインバウンドの来訪促進を支援しており、また、Wi-Fiの整備や公衆トイレの洋式化などに補助金等で支援している。また、免税店の普及が進まなかったということもあり、そういった拡大に向けて、取り組みを進めている。

今回、ビジョンとアクションプランに分けて作ることについては、良いことだと思う。特にアクションプランは単年度ごとに作るということで、それぞれの成果の状況が単年度ごとに検証され、それを翌年度に繋げていくといった方法が良い。

【齋藤委員】

新潟県では、国の平成20年の観光庁発足に合わせ、観光立県推進条例を制定し、平成29年3月には、観光立県行動計画を改定、また、平成30年3月には、県の最上位の行動計画である県総合計画を改定したところである。

また、この4月から産業労働観光部内の組織として、観光局を独立し、局に格上げして、観光部門の権限を拡大することによって、交流人口の増加、インバウンドへの対応に強力に取り組むところである。

県総合計画では、訪日外国人旅行者数は増加しているものの、宿泊数は全国の中位にとどまっており、また、スノーシーズンに偏っているという認識が示されており、そのための施策展開として、多様な人や文化が交わる、にぎわいのある新潟を実現するために、国内外に通用する魅力ある観光地づくりと、発信による誘客推進、外国人観光客の誘致の推進、スポーツと文化をいかした地域づくりによる交流拡大の三つの政策を上げている。

その中で、現状課題としては、本県は、美しい自然豊かな食文化、特色ある産業などたくさんの宝があり、それらすべてを発信してきたことで、アピールポイントの明確性やストーリー性が弱く、観光振興にいかしきれていないと分析している。

このため、本県が誇る食文化を中心に、ストーリー性のある観光資源として磨き

上げて、食べ物が美味しく、人々の暮らしや文化も上質で豊かであるという、本県の観光のブランドイメージを構築することで、交流人口の拡大を図り、訪れてよしの新潟県を実現するという方針が示されている。

また、外国人観光客の誘致については、外国人宿泊者が伸び悩んでいることと、スノーシーズンに偏っている状況にあることから、グリーンシーズンを含めた、本県の観光の魅力をいかに旅行者に伝えるかが課題との認識を示しており、そのため、ターゲットとなる市場中心に、旅行者ニーズを把握しながら、他県と差別化できるブランドを構築し、官民一体による観光プロモーションや情報発信などに取り組むという施策方針を示しているところである。

上越市においては、インバウンドの誘客は、伸ばしていく余地が十分にあると考えており、ターゲットを絞った誘客活動の強化が効果的ではないかと考えている。

【板垣委員】

商工会議所としても、観光には非常に力を入れており、平成26年度に交流人口の拡大ということで、上越観光コンベンション協会と一緒に「謙信公フィールド・ミュージアム構想」というものを策定し、一緒に進めてきた。特に春日山・上杉謙信を核として、交流人口の拡大ということである。

それから、上越市、上田市、甲府市の三つの会議所で、「三国同盟」というものを立ち上げ、相互訪問や観光列車の相互乗り入れというようなことも行ってきた。

今回の計画の策定にあたっては、商工会議所は、地元の中小企業の立場、会員の方から会費をいただいて運営しており、観光は人が来ることによって、地域の事業者が潤い、ひいては地域の発展に繋がるという観点をもって取り組みたいと思っているので、よろしく願いしたい。

【南委員】

先ほど第五次観光振興計画の振り返りという話があったが、私は第三次観光振興計画策定に携わっていた。当時の観光は総花的なもので、「あれもあります」「これもあります」といったPRを中心にしており、具体的な計画があまりなかったと反省も含め感じているところである。

それから10年経ち、観光を取り巻く環境や状況が大きく変わったと思っている。

上越市では北陸新幹線が開業し、移動時間が短縮したということがあり、また、この十数年でインバウンドはかなり地方へも波及している。

さらに、観光ニーズの大きな変化、W i F i の必要性や、S N S の影響力、こう
いった、昔の考えでは追いつけないような部分もあり、今後もどんどん変わってい
くと思われる。それら変化を見越した計画づくりが必要と思っている。

観光は非常に裾野の広い産業で、様々な分野の方に影響があり、様々な分野の皆
さんが頑張ることで、非常に成果が上がってくると思っており、また、役割を明確
にしていくということと、主体を明確にする必要があるのではと思っている。

上越観光コンベンション協会としても、観光の担い手として頑張っていかなけれ
ばと思っているが、今はどちらかという、イベントが中心という状況になってお
り、今後いろんな企画や誘客を中心に動いていく、そのような組織にしたいと思っ
ている。ここでの議論の内容や、計画の方向性を踏まえて当協会でも進めていき
たいと考えている。

【渡辺委員】

去年の4月に上越市に引っ越してきて、ちょうど2年目になるが、地元のスタッ
フに、この辺でどこか観光でおすすめする所があるかと聞いたときに、大体皆さん
「何もない」という。

上越観光コンベンション協会の方や事業所の営業の方と関東・関西へ営業に行っ
ているが、各施設の方からいろいろな話を聞いていると何もないわけではなく、上
越市には歴史があるということを知っていた。

警女ミュージアムの方から、この辺はお寺が多く、高田城もあり、町の成り立ち
にもいろいろと理由があり、「この道がこうなっているのは、こういう理由からだ」
など、いろいろと歴史を教えてもらい、とても面白いのになぜ地元の人知らない
のだろうと、ずっと気にかかっており、今回、観光についての基本的な考え方や計
画策定に携わるということで、点々としている、いいものを線で結びつけられるよ
うな、考え方等ができればと思っている。

私の意見として、「うみがたり」がどういう役割になっていけるかと考えたとき、
上越を知るきっかけ、或いは、最後の決め手になる施設になればよいと思ってい
る。

水族館は全国どこにでもあり、水族館が好きな方は全国を一人旅する方も多く、
また、グループで夏休みやお盆期間を使って、全国の水族館を巡るという方もい
る。さらに、周りに何も見るものが無くても、水族館だけを見て帰る方や、地元のおい
しいものを食べて帰るという方もいる中で、「うみがたり」は他の施設にはない唯一

無二のものが見られると言えるような、取り組みをしていきたいと思っている。

営業に行くと、「他にないものは何か」と聞かれるので、この地域の他にないものを水族館を含めアピールしていく、情報発信し、知名度を上げていく、ということに取り込んでいければと思っている。

【岡田委員】

中郷区まちづくり振興会では、えちごトキめき鉄道と共に、中郷区にある二本木駅を中心に、スイッチバックという観光資源を活用し、地域活性化に取り組んでいる。

地域の人たちと連携して取り組んでいるところが非常に自慢できる点で、地域の人だけではなく、企業や行政と一緒にやって地域の発展を目指している。

中郷区には遊園地やゴルフ場などがあり、立地的な条件は良いが、資源をいかしきれてないとすごく感じている。それら点を結んでそれが線になるようなことをしていくのが一番良いと思っている。

また、上越市は広く、他の地域にも非常に良いところがたくさんあり、これからもそれをどういかしていくか考え、地域のキーマンをうまく巻き込んで、発信していければ非常によいと思う。

観光に対する基本的な考え方については、非常にいいことだと思う。ビジョンということなので、5年、10年先を見据えたものを示すようなことも入れた方が、より具体的な取組になるのではと思う。

結果を残せるか残せないか別として、目標はある程度しっかり明示した方が、そこへ向かっていくことができるので、今回の基本的な考え方としては、ビジョンを見据えて未来を作っただけであれば非常に良いと思う。

【亦野委員】

「上越あるるん村」の中にある「あるるんの杜」を担当している。

平成18年に農産物直売所「あるるん畑」がオープンし、その後、平成28年に地場産の農産物を使用した加工品のレストランやパン、こういった加工品を販売する「あるるんの杜」がオープンした。それぞれが離れた施設であったが、平成30年にはそれらをまとめ、一つの「村」にするということで、鮮魚販売や農産物直売所、加工品販売、レストランの三つを一体的にしてオープンしたのが、「上越あるるん村」という一大テーマパーク施設となった。

その中で今回の議題の観光の基本的な考え方について、2点お話しさせていただこうと思う。

まず1点目だが、資料4の12ページに地域全体で観光地域づくりに取り組むといったようなことが書いてあるが、当施設でも思い当たることがある。「あるるん畑」と「あるるんの杜」は別々の施設だったため、商談会に行っても、どこの旅行会社も興味を示さなかった。

ところが、施設が一体的になったことで、商談会で非常に高評価をいただき、受けが良くなり、大型バスもかなり来ていただけるようになったことから、ワンストップが求められていることが分かった。

これが地域全体にも言えるのではないかと考えている。それぞれの地域のプレイヤーが各々主体的に地域全体をPRしていく、この部分にも繋がっていくのではと思った。

2点目としては、やはり最終的に伝えていくのは事業者であり、我々であるが、今回の計画はわかりやすく、コンパクトで読みやすい、共有できるものを作成するとのことで、やはりそのわかりやすさは大切であり、PRする人全員で共有できるものがあると非常に現場としても伝えやすいということを感じた。

特に、地域資源は何かと質問される時に非常に困ることがあるが、なぜそれが地域資源で、その地域資源の何がおすすめなのか伝えることが非常に大変だと思っている。

上越市にはいろいろな資源があると思っているが、当店に来られる方から「上越市のいいところを教えて」とかなり聞かれる。やはり点在しているものは紹介しづらく、上越全体の魅力はこれですと言えなくても、その点をつなぐ面のようなものが多数存在していても、こういう方にはこの面、この方にはこの面といったような伝え方ができたら非常に伝えやすいし、それが役割の明確化にも繋がってくるのではないかということを感じた。

【今井委員】

岩の原葡萄園でも10年から20年ぐらい前までは、知名度を上げようということで、当時の観光の主流でもあった、団体客を中心ととにかくお客をたくさん呼んで、知名度を上げていくというような方策を行っていた。

しかしながら、現在は個人旅行が中心ということであり、特に私が首都圏等での

PRや当社のワインセミナー等で話すとよく出てくるのが、いわゆる「ワインツーリズム」である。

ワイン好きな方はワイナリーを目的に地方へ出かけるが、そのような方たちはそのワイナリーへ行った際に、その地方にどういった食べ物があって、どんな魅力があるかということを探る。目的はワインであるが、私どもがよくお相手させていただく方たちは、「岩の原葡萄園はどこにあるのか」「どこで食事したらいいのか」「どこか見るところはあるか」と質問する方がほとんどである。

そういった方たちが上越市へお越しいただいた際に、どうすれば喜んでいただけるかということで、最近の取組としては、サービスや見どころなどのソフト面の充実を一から見直して、我々のブランド価値として、向上していこうという取組を地道にさせていただいている。

来年、当社も130周年を迎え、創業150年までの長期ビジョンを立て、ブランド価値の向上を目指しており、多くの方に認めていただけるようなブランド価値になることで、我々も上越市、地元の皆さんに、社会的貢献、経済的貢献ができるのではないかという思いで取り組ませていただいている。

【上原委員】

この高田小町は、もとは卸売りの問屋さんであり、私の祖母が当時のその問屋さんで大親友で、私の祖母も店をしていたが、当時は本当に店が忙しく、祖母の代わりに、この問屋さんへ届け物をするなどしていた。

雁木の魅力、町家の魅力を、昔から、歴史も踏まえてわかっているものとして、上越市、高田また直江津、それぞれ素晴らしいとずっと思っており、周りを見渡せば、山の恵みが豊かに、水が流れて海の恵みが豊かに、本当に風が光っているなど素直な思いを書き留めて、上越市民の歌「このふるさとを」を作詞させていただいた。

また、高田文化協会に所属しているが、発酵文化のすばらしい町ということで、糸魚川、妙高も含めて、酒蔵を一軒一軒回って、高田文化協会が発行している「文芸たかだ」で執筆しており、17回目か18回目になっている。

さらに、フードコーディネーター、利き酒師として、雪むろ推進プロジェクトの発足当時から関わっており、安塚区だけではなく、あちこちの雪むろを見て回る中で、本当に素晴らしい食材、食品にあふれ、素晴らしいものを作ろうとしている人

たちがこんなについて、なんて素晴らしいところだろうということをいつも思っている。

計画策定に当たっては、素晴らしい方がここにもいたということを皆さんと共に感動しながら、関わっていただけたいと思っている。

【笹川委員】

昨年9月から、友人とともに、「上越から世界を繋ぐ」というミッションを立てて、上越から世界と外国の人たちを繋いでいきたいという思いで、通訳、翻訳、インバウンド、移住してきた外国人の方のサポートなどを行っている。

きっかけは東南アジアをバックパッカーで3、4ヶ月回ったとき、いろいろな村に立ち寄ったが、現地の人に助けてもらった経験をし、上越市、また、日本に来る外国の方にも恩返しをしたいという思いで活動を始めた。

最近、上越市に移住して来た外国の方で、上越市の良さを認めてくださり、魅力を発信していきたいと言ってくれた方がいた。

いろいろなプレイヤーがこれから必要となってくると思うが、日本人の方だけではなく、外国の方にも上越が大好きという方や、上越に住んでいないが上越が好きという方が東京をはじめ、いろいろなところにいるので、そういう方に、SNSを使って上越を発信してもらえば、いろいろなところに波及していくのではと思っている。

【山下委員】

教育旅行、修学旅行、それから一般の方や、法人、自治体等いろいろな組織団体の、旅行の斡旋、販売を中心に約20年間担当し、その後10年間、「地域交流事業」というものをやらせていただいている。

当時、埼玉の支店にいた頃、埼玉の鷲宮という地域に鷲宮神社という神社があり、そこに全国からアニメのファンが集まり、少しずつ盛り上がっているといった話を聞き興味を持ち、それを応援していたのが地元の商工会とのことで、いろいろと意見交換をしているうちに、自治体、県、いろいろな方がそれに関わってみんなに応援しようという話になり、会社でもそういう着眼点で仕事をやっていこうということで「地域交流事業」が生まれ、約10年ぐらい取り組んできた。

今計画策定にあたっての基本的な考え方について、ともすると、観光が目的になりがちになるケースがあると思うが、やはり観光は目的ではなく、あくまでも手段

である。地域づくりの手段としての観光ということ、しっかり軸を置きながら進めていくべきと思っている。

それから、先ほど第五次観光振興計画の振り返りをしっかりされており、今後どうすべきかというヒントが十分示されたと思うが、地域における強み、ストロングポイントをさらに伸ばす。それから、少し弱いなというところがあれば、そこに対して打ち手をしっかり講じて、どうすべきか考えることが重要である。そこには、ある意味知恵と工夫が必要と思っている。

例えば、上越市に滞在してお金を落としてもらうような仕掛けが何かないかなど、滞在してもらえるようなプログラムを意識して行うことで、ウィークポイントを高めていくことができるのではと思っている。

【北嶋委員】

雪月花というリゾート列車が土日を中心に走っているが、年間約5,000人から6,000人の方にご利用いただいているが、そのうち県内の方が約15%で、ほとんど県外の方に利用いただいている。

そのうち海外の方が全体の1割であるが、年間約500人を超える海外の方が雪月花に乗っていただいております、そのうち95%以上が、台湾の方である。

どういうルートで、この地域に来ているかというと、非常にまちまちであり、新幹線で東京から来る方、或いは、富山空港からツアーで金沢を回ってくるような方、また、名古屋から来られたりと、いろいろなルートで来られているが、国内のツアーの一つのパーツとして、雪月花が利用されているといった状況である。

リゾート列車自体は非常に値段が高いものであるが、当社は地域の公共の足という役割もあり、利用いただいている地元の方からの支援で成り立っている会社であるので、そういう意味では会社としても観光振興ということで、地域貢献をしたいと、数年前からいろいろな取組を行ってきている。

具体的に言うと、先ほど岡田委員から話があったが、駅を少しずつ観光拠点化していこうということで、地域の皆さんと一緒に作っていけないかと、今、取り組んでいるところである。

そのほか、管内には20ほどの駅があるが、駅周辺を歩いて回るためのガイドブックを各駅ごとに作成した。最初は日本語で作成したが、非常に好評で、最近では英語版も作成したところである。

当社については通学などの地域の方の利用だけでは、なかなか将来生き残れない、厳しい状況にあると認識している中で、生き残る道はやはり、観光路線化、鉄道を使って、この地域でいろいろ周遊し、お金を落としてもらい鉄道も利用してもらおうという、取組をやっていかざるを得ないと考えている。

近近社長が交代して、その点を得意とする方が社長になるが、そういう事も含めて、今後、会社としてもしっかりやっていきたいと思っている。

我々も観光のプレイヤーということで、これまでもずっとやってきているが、これからも、今回のビジョンで整理している意識を持った中で、一生懸命手探りでも取組を進めていければと思っているところである。

【丁野委員長】

一通り皆さんからご意見をいただいたが、まだ若干時間があるようなので、何かご質問などあれば、お願いしたい。

【中牧委員】

資料4の12ページにプレイヤーの拡充と役割の明確化とあるが、国としては、観光地域づくりの舵取り役となる法人ということでDMOの形成を進めているが、その辺についてどう考えていくのか、整理して、作っていくのであれば、作っていく、必要ないということであれば、それはそれで構わないと思うが、その辺もまた整理していただければと思う。

【丁野委員長】

これについて、事務局側で何か考えなどはあるか。

【市川部長】

DMOについての市の考え方であるが、我々もDMOについては研究したり、他の状況などを見たりしているが、その取組の趣旨は、本当に必要なことだと思っている。

どういった方をターゲットにするのか、自分たちをどのように発信していくのか、それから、様々な上越市の各産業の連携など、そういったものを今まで何となく行っており、従来型の金太郎飴のようなPRが多かったが、そういうものを組織だって地域でやっていく、という必要性は感じているところである。

ただ、まず組織を作ればすべてが解決するかのような認識が、国内、他のところにおいてもあるのではないかと見ているところであり、本来のDMOの役割を発揮

するためには、活躍できるプレイヤーが必要になってくるので、今は力を蓄える、あるいは探す、見定めるといったことを、我々行政と事業者、観光に取り組んでいる方々と議論を重ねていき、DMO全体の趣旨としては共感できるところではあるので、いずれは組織化も視野に入ってくるのではと考えているところである。

【丁野委員】

DMOも今、全国にいろいろな形で200ほど出来ているわけであるが、基本はやはり何をやるかである。何をやるかという事業イメージが明確になっていないと、何をマーケティングしているかわからない、そもそもその事業がきちんと収支を伴って回るかどうかの見極めをつけないといけない。

おっしゃるように、組織先行ではなくて、事業先行のような形で考えていただくのが良いかと思う。

【平原副委員長】

DMOの話が出たが、目指すべき方向として、DMOというのにはありと思っているが、まだ、上越市では機運が盛り上がっていないと思う。ただ、DMOに向うことも、ビジョンの一つにあって良いのではと思う。

今日、皆さんの意見を聞いて思ったことは、やはりビジュアル化が必要だということ。皆さんが考えていることや、日々取り組んでいることについて、きちんとビジュアル化して、表現するということが必要。

私も苦手な分野ではあるが、そのためには編集者、やはりライターのような方に、皆さんの話していること、考えていることを拾ってもらう必要があると思っている。そしてそれをまとめるもの、冊子、あるいは、WEB、メディア、何が良いかというのはまた別の話になるが、そういうものを編集する組織がDMOであっても良いと思っている。ここにも、いろいろな取組をしている方が集まっているが、地元のそういった方をいかしていければよいと思っている。

【丁野委員長】

他に何かあればお願いしたい。

【板垣委員】

直江津市と高田市が合併したときに、会議所も一緒になったが、商工会議所と商工会は法律が違うため、一緒になれなかった。その中で、なかなか商工会と連携がうまくいってない。ただ、上越市と妙高市、糸魚川市の三つの商工会議所では、集

まっいろいろと情報交換を行っているが、その中で、計画の段階ではないが、現実的な話として、その三市の連携について何か考えはあるか。

【市川部長】

上越市、妙高市、糸魚川市はもともと上越地方ということで、行政でも様々な事業分野で繋がりが深く、また、上越市、妙高市、糸魚川市を含めた上越地域を一体のものとして考える雰囲気随分醸成してきているものと思っており、我々もそういった連携を後押し、行政間でも、風通しを良くして、いろいろなアイデアを出し合って進めていこうと、日頃から取り組んでいるところである。

【丁野委員長】

ここで意見交換を終了したい。事務局から事務連絡をお願いする。

【見波主任】

- ・ 会議の日程 9月17日（火曜日） 午後2時から4時
- ・ 会場 上越市レインボーセンター

【丁野委員長】

今回のビジョン策定は、他の全国のいわゆる観光基本計画の作り方からいっても非常にユニークな作り方になるのではないかと大変期待している。

今の観光にとって一番大事なポイントは、古い観光の中の仕組みを少し変えて、見せ方を変えることでそれが非常に強い資源になるということ。

全国各地で古くからある観光地の再生が行われているが、こういう地域はちゃんとしたインフラがあるから、それが再生し蘇るとすごく強い。

箱根にしても熱海にしても別府にしても、非常に好調に伸びてきている。これは、もともときちんと持っているものがあるわけで、それを顧客価値に沿って見せ方を変えるなど仕組みを変えていくということを行っている。

上越市も、何か新しいものを始めるということも大事であるが、ある意味非常に古い時代からのしっかりした観光を持っているので、少し見せ方を変えていく、視点を変えていく、顧客のニーズをきちんと捉えていく、このような側面を大切にしたい。このように古いものをしっかり育てながら、それを新しい価値にしていくという観点で取り組んでいくことが大切だと思う。当然考えの中にあると思うが大事である。

【市川部長】

本日、皆様方からそれぞれの思いも含めて、いろいろな視点から、思いのこもった意見をたくさん頂戴した。

資料の中で今後のスケジュールも示しているが、日にちが十分あるようで、案外短い期間であるので、今日いただいた、ご意見、ご指摘を、まず、自分たちの中に取り込み、皆さんの思いも取り込ませていただき、我々の方で案をお示しし、この限りのある時間を有効に活用して参りたいと考えているので、今後ともご協力をよろしくお願いしたい。

【小池副課長】

- ・閉会のあいさつ

9 問合せ先

産業観光交流部観光交流推進課企画係 TEL：025-526-5111（内線 1815、1816）

E-mail：kanko-shinko@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。